

ジャズ文化講座

ジャズを楽しむ!

講
料
受
無
料
[要申込]

会場 クリエイト浜松 2階ホール 講師 守屋純子

ジャズの聴き方は、とても自由です。理屈や歴史を知っていなければ楽しめない、なんてことは一切ありません。ただし、ちょっとした知識があるだけで、より楽しめることもまた事実。ジャズってどんな音楽なんだろう?どんなところから聴きはじめると良いんだろう?この5回シリーズではそんな疑問について、演奏者の立場からわかりやすくお話をさせていただければ、と思っています。講義後にミニ・コンサートもあります。

守屋純子

第1回 7/17(金) 18:30~20:15 ゲスト 高橋 徹

ジャズの誕生:1940年代以前(モダンジャズ以前)

20世紀初頭のニューオーリンズにて、多様な音楽ジャンルが融合し、ジャズは誕生しました。「なぜこの時代、この場所だったのか?」—その背景にはアメリカ史との深い関わりがあります。ジャズのルーツから全米へと波及していくまでの軌跡を紐解きます。

第2回 7/31(金) 18:30~20:15 ゲスト 近藤和彦

1940年代:ビバップという名の革命

1940年代初頭、ダンスの伴奏だったジャズは「座って鑑賞する芸術音楽」へと急速に変貌を遂げます。チャーリー・パーカーやディジー・ガレスピーが牽引した、即興演奏中心の高度で難解な「ビバップ」。彼らが起こした革命の本質とその普及の謎に迫ります。

第3回 8/21(金) 18:30~20:15 ゲスト 吉本章紘

1950年代:ハード・バップの黄金時代

複雑化しすぎたビバップに対し、その揺り戻しとして登場したのが「ハード・バップ」です。アート・ブレイキーやホレス・シルヴァーを中心に、よりメロディアスでブルージー、そしてダンスブルなスタイルが聴衆を魅了しました。数々の名曲・名盤が誕生した、ジャズの黄金期を解説します。

第4回 9/4(金) 18:30~20:15 ゲスト 岡崎好朗

1960~70年代:ポスト・バップからフュージョンの時代へ

コード進行の束縛から解放されるべく、マイルス・デイヴィスの『Kind of Blue』を起点に「モード・ジャズ」が誕生します。同時期に「フリー・ジャズ」も台頭。そして1970年代の、ロックやファンクを吸収し、電気楽器を多用した「フュージョン」の流行まで、多様化するジャズの変遷を辿ります。

第5回 9/11(金) 18:30~20:15 ゲスト 北沢大樹

1980年代から現代:ジャズの多様性と広がり

1980年代、ウィントン・マルサリスの登場により「アコースティック・ジャズへの原点回帰」の動きが加速します。その後、ジャズは世界各地で独自の発展を遂げ、教育の場にも浸透しました。日本国内の現状も含め、ボーダーレスに広がる現代ジャズの在り方についてお話しします。

対象 ジャズに興味のある方ならどなたでも

定員 300名

申込 右記の申込フォームにて5/15(金)より受付開始

<https://req.qubo.jp/hcf-request/form/jazzseminar2026>

※定員になり次第、締め切らせていただきます。

※予約完了メールをご登録のメールアドレスに送付いたしますので「@actcity.jp」からのメールを受信できるように設定してください。



HAMAMATSU ACT CITY ACADEMY of MUSIC
浜松市アクトシティ音楽院

主催 浜松市、浜松市教育委員会 主管・問合せ 公益財団法人浜松市文化振興財団

〒430-7790 浜松市中央区板屋町111-1 TEL 053-451-1150 FAX 053-451-1123
<https://www.hacam.jp>

ジャズ文化講座

ジャズを楽しむ!

PROFILE



講師 守屋純子 (ピアノ、作編曲家)

早稲田大学卒業後、マンハッタン音楽院修士課程修了。2005年CD“Points Of Departure”が第18回ミュージック・ペンクラブ賞を受賞。同年、ジャズ界で最も権威のある米国セロニアス・モンク・コンペティション作曲部門で、東洋人・女性として初の優勝に輝く。

2004年自己のカルテットでインド公演、2008年“モンタレージャズフェスティバル”等米国ツアー、2008年・2009年に、フランス・ツアー、2014年より2019年までロシア公演を行う。2025年6月、11枚目のCD〈Mooving Onward / 守屋純子オーケストラ〉を発表。

全国で様々なコンテストの審査員を務め、指導を行う他、米国・豪州・フランス・香港など海外でも指導している。昭和音楽大学、早稲田大学エクステンション、浜松市ジャズ講座、横須賀市民大学講師。

〈公式HP〉 <http://www.junkomoriya.com/>

GUEST



第1回ゲスト 高橋 徹 (ドラム)

大坂昌彦に師事。大森明 (as) 岡林信康 (vo) 小曽根真 (p) 尾田悟 (ts) 幸島文雄 (p) 中村誠一 (ts) 山下洋輔 (p) 吉岡秀晃 (p) Bobby Watson (as) Wess Anderson (as) Salena Jones (vo) から三遊亭小遊三・春風亭昇太まで共演者は幅広い。近年は、自己ユニット「TOKYOGROOVIN' HIGH!」、国立音楽大学ジャズ専修の講師として「ジャズドラム」のレッスンだけでなく、その所有する膨大な映像資料、音源を駆使して「ジャズの歴史」の講義で教鞭をとっている。

〈公式HP〉 <http://www.torutakahashi.com>



第2回ゲスト 近藤和彦 (サクソックス)

1964年、甲府市出身。宮間利之、松岡直也、高橋達也、菊池ひみこ、佐山雅弘、熱帯JAZZ楽団、小曽根真などのバンドに参加。現在、自己のグループ、渡辺貞夫、守屋純子などのバンドやセッションで国内外で活動。昭和音楽大学ジャズコース講師。Phil Woods、Dick Oattsに師事。

2019年Gonzalo Rubalcaba (p) の公演に日本人で唯一参加、そのライブレコーディングされたCDが2021年第63回グラミー賞ノミネート作品となり、その中のソロがアメリカ第42回Annual Jazz Station Awards The Best Jazz of 2020のSoprano Sax部門に選ばれる。



第3回ゲスト 吉本章紘 (サクソックス、作曲家)

2006年、Berklee音楽大学 演奏科を卒業。2010年、自己のカルテット(吉本章紘、Aaron Choulai、須川崇志、石若駿)を結成し活動を展開。現在は、大西順子セクステット、サキソフォビア、原信夫とシャープス&フラッツ、守屋純子 Orchestra、中森明菜 Jazz Band 等にレギュラー参加。また、慶應義塾横浜初等部 音楽科非常勤講師も務め、アメリカ音楽、作曲法、器楽指導にも携わる。



第4回ゲスト 岡崎好朗 (トランペット)

東京都江東区出身。12歳からトランペットを始め中学生のときに観た“ベニーグッドマン物語”に影響されジャズを聴き始める。17歳のときからジャズを演奏し始め、五十嵐一生、村田浩に師事する。2005年5月よりNYに拠点を移し、同年12月にアーティストビザ取得。渡米中は多くのジャズクラブ(Blue Note、Birdland、Dizzy's club coca-cola、Iridium、Sweet Rhythm、Kitano等)で演奏し、Mingus Bigband、Mingus Dynasty、Valery Ponomarev Bigband、小曽根真No Name Horses等で活躍。昭和音楽大学非常勤講師、国立音楽大学非常勤講師。



第5回ゲスト 北沢大樹 (ドラム)

University of North Texasジャズ学科を成績優秀者、University of Northern Coloradoではジャズ学科修士課程を首席で修了。18歳で渡米、在学中から10年以上主にカリフォルニア、テキサス、コロラドなどで演奏する経験を持つ。共演者はVince Mendoza、Greg Gisbert、Alex Sipiagin等。帰国後は国内外問わず様々な場所で活動している。

